

「平成 26 年度 新任保育士・職員研修会」報告書

【期 日】 平成 26 年 6 月 12 日(木)
【会 場】 ロイヤルチェスター佐賀
【主 催】 佐賀県保育会
【参加者数】 1 2 3 名

【内 容】

研修 1 講師：田中 豊博 氏 (佐賀県保育会会長) 10 : 10～10 : 30

研修 2 講師：蒲池 房子 氏 (清華保育園園長) 10 : 30～12 : 00

研修 3 講師：那須 伸樹 氏 (東京家政大学教授) 13 : 00～16 : 00



研修1 報告、『基調報告』

講師 田中 豊博 氏

1、 子ども子育て新制度について

(1) 新幼保連携型認定こども園と保育所の違い

保育に欠ける ⇒ 保育を必要とするにかわる

(例：パートで11時間預けていたのが預けられなくなる)

(2) 公定価格

(3) 幼稚園教諭・保育士資格

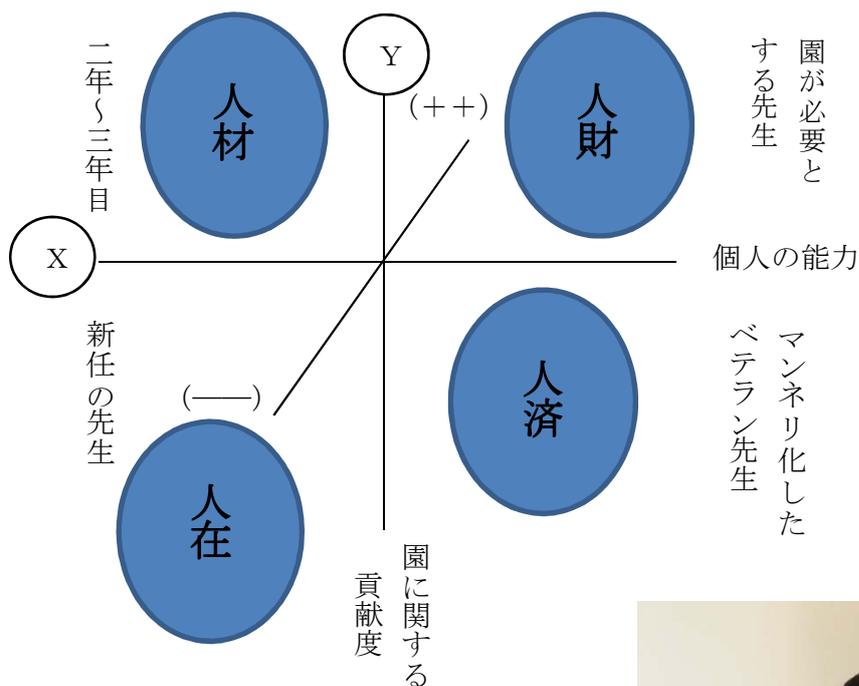
両方持って保育教諭となる

(4) 処遇改善

一時金として26年度も支払われる。27年度以降給料に加算予定

保育士になる人が増えるように願う。

2、 新任保育士としての心構え



研修2 「子どもを理解するために」～新任の私にできること～

講師 蒲池 房子 氏 (清華保育園園長)

○保育者に社会からかけられてる期待

- ・子どもを健やかに育てること
- ・子育てをしている(保護者、親)を支援すること

保育園は家庭と同じように人生の基盤となる『生き方』を学ぶ大切な場所であり
傍にいる大人たちにとっても『生き方』を学ぶ大切な場所

★子どもは大人よりはるかにユニークで豊かな発想の持ち主ある。しかし大人は自分と比べて子どもが小さく未熟であるがゆえに、つつい子どもを自分の思い通りにしようとしてしまう。保育や教育においても子どもが到達するべき目標を設定し、達成させることに執着すると子どもを対象として扱うようになる。そうすると保育者の目は、外面的な行動の変化ばかりにむけられ、子どもが今何をもとめているのかが見えなくなってしまう。

⇒慣れっこになると子どもを一人の人間としてではなく、仕事の対象としてしまう。

(なるだけ早くしたい。スムーズにいくようにしたい)

待ったり、声をかけたりすることで本当はできるのに・・・

子どもは、大事なことを親や保育者を見て真似、吸収している

○新任だからこそできること、見えるもの

- ・慣れっこではない
- ・子どもの隣で様子を見ながら一緒にいろんなものを感じ取っていくことができる
新任保育士として大事なこと
- ・このままでいいと決して思わないこと。
- ・成長の可能性のある私なんだ。と自分を信じること(今日より明日、明日より…)

★いま大切なものは かつてでもなく これからでもない一呼吸一呼吸の今である

⇒子どもたちにとって大切なのは今やってること

先の事を見通していつてしまわないこと

(またそんなことして、ダメでしょ。そんなことしたら〇〇よ。)

・一瞬一瞬、一日一日を本当に大切に子どもの隣で過ごし子どもの気持ちに寄り添える
保育者でありたい



○新任保育士としてすべきこと

- ① 保育所保育指針をしっかりと読む 総則をしっかりと把握しておくこと
倫理綱領を基に保育内容を確認する。(保育士としての誇りをもつ)
- ② 園の保育課程、保育理念、保育目標、保育内容を理解する。
保育課程は一枚の紙で園の方針が総合的に示されているもの。みんなが理解してないと個人の考えで保育をしていることになる。
- ③ 子どもの発達を理解する、子どもの発達に寄り添う
- ④ 保育者集団の仲間入りをする。お手本になる先輩保育士に学ぶ。
保育士は子どもに影響を与える。生きていくための人間形成の基礎にあたる大切な役割⇒保育観、子ども感、いとおしかったり嬉しいことなどを、先輩たちにきく

※ゆっくり、どっしりかまえることでみえないものがみえてくる

★全ての子どもが幸せに生きることを保障される保育の実現

子どもの幸せの条件

- ① 子どもが毎日を心安らかに安定した気持ちで過ごせるということ (情緒の安定)
- ② その子なりに打ち込めるものが保障されそれが生きる喜びになっているということ
最近意欲のない子、指示なければ動けない子が多い。これは、親や保護者が忙しすぎて自分でやろうとしている時に待ちきれずに手を出したか手をかけたか・・・それを繰り返すことが原因である
- ③ その子の存在が周囲を明るくし力を与え育ちあうエネルギーになっていること
親・保育者に認められてない子 (どうせまた、またこんなことして) といつも否定的な眼で見ると、勝手な行動をとる。思いやりのない子に育つ。
保育者が、こどもを大事にしているところを子供たちに見せることが大事

保育の原点 →子どもは必ず育つ→子どもの成長・育ちを信頼すること

- ・私たちの中で共有する
今はできなくてもきっとできるよ。と子どもに伝える
- ・子ども一人ひとりの育つスピードやコースは同じではなく、様々な成育歴の中で「今のこの子ども」がいるということの認識が大事。

★仕事に意味を加える

同じ仕事なのに自分が何を意識するかで全然違ってくる。

ただ子どものお世話をして、一緒に生活をしているだけではなく、私たちの関わった一人一人の子どもたちが将来大人になって社会を支え、自分の生きがいを見つけて世界に羽ばたいていくことを想像したら嬉しくてたまらない。私たちのしごとは子どもの将来を支えていると思った時に保育という仕事の素晴らしさに気付く

研修3「対話で深める子ども理解（基礎編）」

保育実践力向上のための“対話する力”・“考察する力”を身につける

講師 那須 伸樹 氏（東京家政大学教授）

『対話』とは？

- ・向かい合って話すこと
- ・ダイアログ（互いに尊重しあう、関心を持ち続ける）

ワークショップ1

PRmap 作りによる対話 → PRmap を見せながら対話する

- ・整理がつきやすく話やすい
- ・情報交換することで対話がはずむ

○ 対話は保育士としての専門性

- ・相手の事を考えながら意識して対話する。（なれること）
- ・保護者との対話は苦手な保護者もあるだろうが、避けてはいけない。関心をもちつづけることが大事 →アクションをおこす・気づいてあげる
- ・保護者や子どもたちへ関心を持っているということをメッセージする
- ・相手が心地よくなるような質問をぶつける。そして引き出す。
- ・子どもとの関係は、対話を深めない子ども理解も深まらない。

※ちょっと意識すればもっと可能性が広がり保育の幅が出る。→理解が深まる

※相手に関心があればより知りたくなり、対話をくりかえすことで質問が具体的になる。→ 信頼関係が生まれる。保育士としてその資質を身に着けていくことは重要

ワークショップ2

フォトラーニングによる対話 → 対話を通して子ども理解や自らの保育をふりかえる（省察する）

○ 一枚の写真をみてタイトルをつける。色々な視点でみる（正解はない）

- ・一つの場面をとらえているいろいろな観点、視点からみないと本当の子どもの理解にはつながらない。
- ・園内研修に使う・・・意思の統一をはかるのによい
→ 気になる子、落ち着かない子への配慮・・・全体の中で自分ができることは何か考える。

★自らの保育実践力を向上させるために

- ・専門職として（保育士として）成長し続けること・・・振り返り反省しとりいれながら実践する。また振り返りのくりかえし（省察力をつける）
- ・根拠に基づく保育 保護者に尋ねられた時、こういう根拠で〇〇していると、きちんと答えること。（保育課程が大事・計画性があること）

★専門性としてのふりかえる力を身に着けるための4つのポイント

- ①「保育の事後」におけるふりかえり・・・日誌・連絡帳
- ②「保育の行為の中の瞬間瞬間」におけるふりかえり…判断力・言葉かけ
- ③「子どもとの関係性」におけるふりかえり
- ④「専門的知識・技能」におけるふりかえり

・より専門的知識を身につけるには、一人で学ぶより保育士同士、栄養士同士・・・

園内で、園同士でと学びあう。対話を通して省察し実践する。努力を怠らない

・園内でやっていることをきちんと見える形で保護者に伝えること。言語化されていない暗黙の知識を言語化すること。

★専門職としての保育士が果たすべき役割

社会に対して日々の保育実践の意味や意義、その価値を示し続けること、

「見える化」を進めていく

研究知と実践知の違い・・・対話が大事。やり取りの中で科学的研究知がかわってくる、自分たちがやっているのは意味のあること

→ 保育のプロとして誇りをもつ



(効果及び評価)

エピソードを交えての話は、新任保育士にとってわかりやすく、新任だからこそできること、保育士だからこそ味わえるものなど、新たな気持ちで頑張る意欲がわいてきたと思う。また、対話や省察力という、日々の積み重ねの大切さ、意識してすることの重要さなど、誰でもできることをきちんとすることが大事。明日からの保育に誇りを持って頑張ってもらいたい。